

年 月 日

国土交通省東北運輸局長 殿

申請者名 田野畑村地域公共交通活性化協議会

代表者名 会長 上机 莞治

平成20年度 地域公共交通総合連携計画策定調査実施計画
認定申請書

地域公共交通総合連携計画策定調査実施計画の認定を下記のとおり申請します。

記

申請者	申請者名： 田野畑村地域公共交通活性化協議会
	代表者名： 会長 上机 莞治
	構成員：(別添資料1を参照)
連絡先(事務局等)	所在地(都道府県名も記載)： 〒028-8407 岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑 143-1
	担当者名： 田野畑村政策推進課 政策推進班主査 工藤光幸
	T E L : 0194-34-2111(内線 62)
	F A X : 0194-34-2632
	E-mail : m-kudou@vill.tanohata.iwate.jp

1. 当該地域の公共交通の概況・問題点

(1) 公共交通の概況

田野畑村の公共交通としては、村民バスと三陸鉄道がある。村民バスは平成4年にJRバスが撤退したのを契機として運行を開始し(旧80条バス)、現在は5路線36系統を7台の車両で運行し、村内の重要な公共交通となっているほか、隣接する岩泉町や普代村と村を結ぶ交通手段の役割も担っている。平成14年までは、民間事業者による代替バスも運行されていたが、運行経費の削減等の対策の一環として村民バスに統合されており、現在は村民バスが村内の公共交通を担っている。村民バスの運行にかかる費用として、村が約4千万円/年を負担して維持している。

三陸鉄道は村の東側の三陸海岸沿いを走り、村内には田野畑駅と島越駅の2駅があり、村外への移動に際して重要な交通拠点となっている。

村内の医療機関としては田野畑村診療所(医師数1名)しかないことから、村民バスは村全域から診療所までの足としての役割を果たしている。診療科目によっては村外の医療機関に通院する必要があり、村民バスと三陸鉄道が利用されている。

また、村内には高校が、岩泉高校の分校として田野畑校が1校あるが、生徒数は少なく、岩泉高校他近隣市町村の高校への通学手段としても、村民バスと三陸鉄道が利用されている。

(2) 公共交通の問題点

(小学校の統合：平成22年4月予定)

平成22年度から村内の6つの小学校が1校に統廃合される予定となっており、これに伴ってスクールバスの導入が必要となっている。スクールバスを導入するにあたっては、現在の村民バスと路線やダイヤ等のニーズが重なる部分も少なくないことから、スクールバスの導入に伴い、村内の生活交通体系を見直す必要が生じている。

(中学校寄宿舎の廃止：平成22年4月予定)

また、現在、村内に1校ある中学校は寄宿舎が整備されているが、道路の整備や社会的な変化によって寄宿舎を利用する生徒数は半数を下回っており、今後廃止も予定されている。そのため、小学校のスクールバスと同様に中学生の通学についても対応が求められている。

(観光振興との連携)

村内には有数の観光地である北山崎や鶉の巣断崖などのほか、近年は体験型の観光振興も進めており、観光と連携した公共交通の整備が求められている。

(村民バスの利用者の減少)

村民バスの利用者数は、平成4年の運行開始以降減少を続けており、平成5年には7万4千人だった利用者数は平成18年度には2万5千人と3分の1にまで減少している。増加する運行経費対策として減便や路線の合理化などを進めているが、その結果、系統数が増える一方で系統ごとの便数は減少するなど、複雑な路線形態となり、利用しにくいバス運行となっている。

また、田野畑村は集落が村内に広く分散しており、路線バス利便性を確保しつつ運行の効率化が難しい地域特性を抱えている。そのため、利用者のニーズに応じた公共交通の実現を実現するためにはデマンド型交通の導入など新しい運行方法も含めた総合的な公共交通体系の検討が必要となっている。

2. 地域公共交通総合連携計画策定調査の必要性

これまで生活交通対策の検討は、既存の村民バスの運営や運行を前提としつつ、問題点や改善について話し合うにとどまっており、通学支援や観光振興も含め、村の地域特性に応じた総合交通体系の検討は行ってこなかった。

総合的な交通体系を検討するに当たっては、村民の移動実態の分析や村に適する持続可能な公共交通の運営運行方法の適用性の検討、関係機関との幅広い協議や連携が必要となってくる。

そのため、これから策定を目指す田野畑村地域公共交通総合連携計画では、住民、教育機関、診療所、観光関係団体、鉄道、タクシー等多様な主体の連携と協働に基づいた、実現性、持続性を備えた総合的な公共交通ネットワークのあり方を描くとともに、実現に向けた具体的な取り組み方策を検討したいと考えている。

そのためには、公共交通に関する実態調査を実施し、総合的な公共交通体系の構築に向けた課題と方向性を明確にするとともに、以下の点について具体的に検討する必要がある。

- (1) 小中高校生の通学の足の確保方策と一般住民との混乗の可能性の検討
- (2) 村内外の通勤や通院
- (3) 観光資源と公共交通の連携による地域観光振興
- (4) 総合的な公共交通ネットワークの構築と連携体制の確立
- (6) 継続的な利用促進体制の確立

3. 調査の内容	
調査の名称	調査の内容
高校生の通学ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 村内高校生へのアンケート調査および、高校へのヒアリング調査（岩泉高校、田野畑校）を行い、高校生の通学実態の把握と公共交通ニーズの把握を行う。
通院ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 田野畑診療所他村内医療機関への通院者に対してヒアリング調査を行い、通院実態の把握と公共交通ニーズの把握を行う。 ▶ 診療所や医院へのヒアリング調査を行う。
観光客の移動状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 観光客へのヒアリング調査を行い、移動ニーズの把握を行う。 ▶ 村内の観光事業者へのヒアリング調査を行い、公共交通との連携可能性を検討する。
需要予測（収支分析）	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ニーズ調査結果をもとに、検討した運営運行に対する需要予測を行い、収支分析を行う。
総合交通体系実施計画案の策定	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 総合交通体系の実現に向けた計画案の策定検討を行う。

4. スケジュール				
以下項目別に概ねの着手・実施期間を矢印（ ） または横棒線（ ）で記載。				
調査の名称	4月	9月	12月	3月
高校生の通学ニーズ調査		—		
通院ニーズ調査		—		
観光客の移動状況調査		—		
需要予測（収支分析）			—	
総合交通体系実施計画案の策定			—	

5. 予算計画			
調査の名称	総事業費 (見込み)	国費 (見込み)	地域の負担 (見込み)
高校生の通学ニーズ調査	222 千円	222 千円	0 千円
通院ニーズ調査	335 千円	335 千円	0 千円
観光客の移動状況調査	315 千円	315 千円	0 千円
需要予測(収支分析)	283 千円	283 千円	0 千円
総合交通体系実施計画案の 策定	270 千円	270 千円	0 千円
事務費	1,175 千円	1,175 千円	0 千円
小計	2,600千円	2,600千円	0千円